

授業科目 生理学 II

【担当教員名】 宮岡 洋三、蘆田 一郎		対象学年	1	対象学科	理学・作業
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		態度	
◎		◎		○	
【概要】 前期の「生理学 I」では、細胞機能から神経・筋機能と運動機能について、また心臓・循環機能ならびに呼吸機能について学んだ。本科目では、はじめに内分泌系と腎臓による生体機能調節について、また消化・吸収機能についても学ぶ。さらに、代謝・体温調節機能、脳の統合機能ならびに運動生理学について学ぶ。					
【学習目標】 ・内分泌－内分泌の総論および各種ホルモンの分泌器官、標的器官、作用、分泌調節、過剰症・欠乏症－について説明できる ・腎機能および酸塩基平衡－尿の生成（糸球体濾過、再吸収、水・電解質の調節、蛋白代謝産物の排出、腎の内分泌機能）、排尿、酸－塩基平衡（血液の緩衝作用、pHの呼吸性・腎性調節）－について説明できる ・消化・吸収機能－消化管運動（咀嚼、嚥下、胃運動、腸管運動）、消化液分泌（唾液、胃液、腸液、膵液、胆汁）、水・電解質・三大栄養素の吸収－について説明できる ・代謝と体温調節－物質（栄養素）代謝、エネルギー代謝、体温分布、熱の放散・産生、体温調節中枢－について説明できる ・統合機能－大脳辺縁系と視床下部の働き、神経伝達物質と行動、睡眠・覚醒（脳電図）、学習・記憶機構－について説明できる ・運動生理学－運動と筋収縮、筋エネルギー代謝、運動時の人体機能－について説明できる					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	内分泌－1				講義、担当：蘆田 一郎
2	内分泌－2				講義、担当：蘆田 一郎
3	内分泌－3				講義、担当：蘆田 一郎
4	腎機能、酸塩基平衡				講義、担当：蘆田 一郎
5	消化・吸収機能－1				講義、担当：宮岡 洋三
6	消化・吸収機能－2				講義、担当：宮岡 洋三
7	代謝、体温調節				講義、担当：宮岡 洋三
8	脳の統合機能、運動生理学				講義、担当：宮岡 洋三
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		生理学テキスト（第6版）	大地 陸男	文光堂	2010・4,800円＋税
参考書		シンプル生理学（第6版）	貴邑 富久子、根来 英雄	南江堂	2008・2,900円＋税
その他の資料		「生理学サイト」(http://physiol-nuhw.sblo.jp/)			
【評価方法】 成績は「試験得点（約75%）」と「出席状況（約25%）」の合計点で評価する。小試験を実施した場合には、期末試験と合わせて「試験得点」に反映される。			【履修上の留意点】 教科書の「目次」と「索引」を活用して欲しい。これらの活用によって、講義内容の「全体」と「部分」が繋がり、理解度の向上が期待できる。なお、「小試験」を実施する可能性があり、その予告があった場合には、知識の点検・整理に努める。		